

カード型データベースによる主業型農家データベースの構築

鶴 田 正 明

(岩手県農業研究センター)

Development of the Database of Card Type Software for Advanced Farmers

Masaaki TSURUTA

(Iwate Agricultural Research Center)

1 は じ め に

岩手県では、他産業並の農業所得獲得を目指す農業者を『主業型農家』と呼称し、地域農業の担い手として位置づけている。また、主業型農家を中心に、地域の農地利用や作業受委託を効率的に行うことを狙いとして「地域ぐるみ農業」の推進を図っている。

地域農業改良普及センターでは、地域や農業者の情報を活用して、主業型農家の育成や地域ぐるみ農業を展開しており、情報のデータベース化が求められている。

ここでは、農業改良普及員の立場から作成したA町の主業型農家データベースを報告し、地域情報の収集や活用などについて考えてみたい。なお、ここで使用したカード型データベースソフトはThe CARD Ver. 5である。

2 データベースの内容

A町の農家戸数は約1,000戸であり、そのうち主業型農家を含めて地域農業改良普及センターに係わりのある384件を登録した。登録項目は、農家の所在・家族の構成・農地・作目・借入金状況・経営意欲・作業受委託など98項目である。

カード作成順に自動的に番号を記入していくNo項目と検索したカードに自由に順番をつけることができるT_No項目を設けた。このソフトでは一括番号記入できる機能を持っているので、カードを並び替えて保存しておくときなどにこの項目を用いる。カードは情報のあったときに新規作成、更新・改正等するので登録年月日をそのつど更新する。

主業型農家の所在は、市町村名、センサス集落名及びその順位 (No.)、字、住所、電話番号と6項目に分けて入力している。センサス名と集落名などが違っていることが多く、集計やソートなどを効率的にするためあらかじめ分類して入力している。

家族の構成では、主要農業主 (主業型農家) のほかに、世帯主・補助者・後継者については、氏名・生年月日・農業稼働日数を記入するようにしている。後継者がいる場合は、農業に従事しているか否かも記入できるようにしている。年齢は自動的に現在の年齢が表示されるように関数で計算式を作成した。老人や子供も含めた家族全体の情報は、全体の家族人数を性別に整理し、農業専従者数も性別に分類している。そのほかの労働力として雇用人数の項目も設

けてある。

農地の情報は、水田・畑作・樹園地・草地・山林原野について自作地と借地の面積を入力している。家畜と農業生産上3位までの作目と面積 (頭数) も入力できるようになっている。項目「その他1」は、可変長データとなっており、ここでは作目や人に関する情報を記入する欄としている。可変長データは、項目の長さが全角文字で2,000字まで記入でき、表示画面は1行でも1画面でも自由に設定できる。表示できない分は、隠れて入っているので、項目欄でカーソルをスクロールさせることによって読むことができる。このデータベースでは、可変長データを4つの項目に設定している。その他1~4までの項目で、画面が変わるごとに設定している。その他1は人や土地に関する情報、その他2は農業機械の所有状況や作業受委託に関する情報、その他3は経営に対する意欲や簿記等の情報、その他4は借入金に対する情報である。情報は、常に、更新されていくので過去の重要な情報等はここに記入することによって過去から現在までの情報をカバーできるものと思う。

カードの画面は、最大98個まで作成することができ、サブ画面と呼んでいる。サブ画面は、最初のカード画面の上に重ねて設定していくので、最初の情報が不用の場合はすべてを新しい画面に設定すればよい。ここでは、人の情報は、どのような場合でも表示させたいことから、画面下半分を用いて次の3つのサブ画面を作成した。B画として作業受委託の情報、C画として経営改善意欲の情報、D画として借入金の情報である。画面はCTRL キーとR キーを同時に押すことによって切り替わる。これらは、いずれもプライベートな情報が含まれていることから、秘密保持のため暗証番号を入力してから利用するようになっている。

B面の作業受委託の情報は、センサス情報など公表データと違っている場合があり、農家を巡回したときなどに仕入れた機械の所有状況や稼働状況などからチェックする必要がある。

C面は認定農業者になっているかどうか。青色申告をしているか、簿記記帳はどのような対応をしているか、パソコンは利用しているか、など農業経営に対する意欲を記入する欄である。

D面は借入金の記入欄である。制度資金等の申請時に入力あるいは更新しながら、負担になるような多大な貸付を

していないかチェックする。負債農家の分析をしてみると意外に補助事業の自己負担金や農協プロパー資金を安易に借りて苦しんでいる例が見受けられる。最もプライバシーに関する事項であるが、事前に経営状況を把握するためにもこれらの情報が必要となってくる。

3 カード利用法

カードの利用にあたっては、事前に使用頻度の高い項目のメニューを作成しておく。メニューは、項目の記入と作業の選択をするだけで簡単に設定できる機能をもっている。

(1) 入力

入力手順書に基づいて必要項目のみ入力する設計としている。また、同一カードコピー、項目リポート設定、入力済みデータ参照、単語や短文の登録などにより比較的簡単に入力ができる。

(2) 検索・訂正

索引を作成している項目についてはあいまい検索（ワイルドカード）が可能、農家の名字で検索し、情報を得たり記入したりが簡単にできる。また、検索結果を保存しておくことができるので「農業委員」、「認定農業者」、「がんばるファーマー」等々の検索ファイルを保存しておき、必要時に保存ファイルから簡単に集団の構成員を呼び出すことができる。

(3) オプション利用

入力したデータ項目分類や二次元分類し集計するメニューがあらかじめ設定されている。作目別、規模別の農家数や面積、年齢別主業型農業者数など希望にあわせて集落の現状把握や地域計画などの作成面でも役立てることができる。

4 カード型選定理由

カード型を利用した理由は、①簡単に設計でき、データ入力後の変更も容易である、②入力や検索などの操作が簡単である、③旧式のパソコンで利用できる、④他の表計算ソフトやデータベースへのデータ変換が容易であること、

④価格が安価、などによる。ただし、複雑な項目間の計算や印刷フォーマットでは弱い面がみられる。

5 ま と め

カード型データベースは設計も簡単、データ入力後の変更も手軽で、入力しながら必要な項目や仕様を決めていく点でもすぐれている。普及現場での情報活用事例の1つとして参考にしてほしい。

【カードA面】

No. 45	市町村名 A町	登録年月日 99-12-12	T_No 1
セゾスNo. 2	セゾス集落名 BBB	集落字名 CCC	電話番号 AA-0001
住 所 A町大字BBB字CCC01-1		農家区分 認定	
氏 名 続柄	生年月日	年齢	稼働日数
父母世帯主 岩手太郎 父	24/05/01	73	100 日
主要農業主 岩手次郎	50/10/05	46	250 日
補 助 者 岩手花子 妻	52/05/10	45	250 日
後 継 者 岩手賢治 長男	73/10/10	23	250 日
後継者の状況 農業者として		家族 専従者	
経営規模 うち借地 家畜頭数		農業生産の上位部門	
水 田 100 a	a 乳牛	順位 作 目 規模 a	
普通畑 200 a	a 短 繁殖 5 肥育	1 位 葉たばこ 150	
樹園地 a	a 黒 繁殖 肥育	2 位 ミトト 10	
草 地 a	a 豚 鶏 千羽	3 位 トマト 10	
山林原野 1,000 a			
その他 1 父: 農業委員、営農推進員 本人: がんばるファーマー			

【カードB面 サブ画面】

農作業受委託の状況				その他2	
受託作業名	受託規模	委託作業名	委託規模	兼用田植機 4条	
1 田植	50	1		コンバイン 2条	
2 収穫	200	2		乾燥機 3 2石	
3 乾燥	200	3			

【カードC面 サブ画面】

改善計画認定の有無	有	認定年月日	1996-3-20
青色申告の有無	有	その他3	
簿記記帳の有無	複式	1996年度からパソコンによる簿記を普及センターのもとで始めている。	
パソコンの利用状況	有		
生産組織加入の有無	無		
経営規模の意向	拡大		

【カードD面 サブ画面】

借入金の有無 有					
	資金種類	年度	借 用 期 間	借 用 金 額	借 用 用 途
借入金1	改良資金	5	7	2,000,000	コンバイン
借入金2	近代化	6	10	5,000,000	たばこ乾燥舎
借入金3	プロパー	7	5	3,000,000	トラクター
その他4					

図 データベースカード画面A～D